

2025年4月リカレント委員会オンラインセミナーご報告

日 時	2025年4月26日(土)10時～12時00分 参加者35名 形式 Webex
テーマ	「ハミダシのススメ～越境×WILLで鍛える社会人基礎力～」
内 容	1 主催者挨拶 2 参加者自己紹介 3 ゲスト講演 4 Q&A、ブレイクアウトセッション 5 まとめ 6 その他
講演者	大川 陽介（おおかわ ようすけ）氏 株式会社ローンディール 最高顧客責任者 WILL-ACTION Lab. 所長 
司会進行	渡邊明男（一般社団法人社会人基礎力協議会リカレント委員会委員長）
主催者挨拶 勉強会概要 説明	長尾代表理事 本日はご参加いただき感謝申し上げます。過去には年2回ほど対面で本セミナーを開催していたが、コロナ禍になりオンラインを導入したことにより開催回数が増え、多くの方々に参加していただけるようになった。素晴らしい講演者の方々のおかげで自身もこのセミナーで大変勉強になっている。今年度は5回のセミナーを予定している。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 渡邊リカレント委員長 去年6月に経済産業省から「人的資本経営に関する調査結果」が出ている。その中から次の点をお伝えしたい。従業員のリスクリングが大事と考えている企業の多くは社内で学ぶことは難しいと考えている 社内における副業、兼業を実施する従業員がほとんどいない現状がある。社会人基礎力の「前に踏み出す力」が不足していると考えざるを得ない。本協議会リカレント委員会では枠を超えていくこと、前に踏み出していくことを推奨していく。本日の講師はどこへ踏み出したら良いのかを確認し自分の心に素直に沿っていくことを中心にお話しいただく。
大川氏 講演	講 演 プロフィール 早稲田大学大学院にて機械工学を学んだ後、富士ゼロックス株式会社に SE として新卒入社。SOL 営業、新規事業開発、人材開発など企業内での越境を経験した。 社外では、約 50 社の大企業若手有志 1000 名を巻き込んだ任意団体「ONE JAPAN」の共同発起人／副代表として、挑戦する個人の覚醒、組織風土変革、価値共創に挑む。 それらを通じて人の「WILL」の重要性に気づき、「越境」の可能性に共鳴したことから、株式会社ローンディールに参画。現在、WILL-ACTION Lab. の所長として、「意志ある行動」をアシストしている。国際コーチング連盟認定コーチ/中小企業診断士。 ① 社会人基礎力と「WILL」および「越境」について ➢ 「主体性」はどうやって高めるのか 主体性は生まれながらに全員が持っているが成長過程で失われる。取り戻すためには「意志ある行動」の繰り返しが不可欠である。 ➢ 社会人基礎力ブースター：WILL×越境 羅針盤を握り境界を越える者が成長を加速させる →WILL を可視化する：自律的行動の起点となる「個人の WILL」を言語化する →「個人の WILL」と「組織の MUST」を連結する →「WILL-ACTION（意志ある行動）」を習慣化する ② 「WILL」とは何か 「WILL」は人生の羅針盤である。WILL（羅針盤）は行動の起点や意思決定の基準となる根源

	的な「気持ち」に近いもの。 ➤ 「WILL」の言語化 言語化するための重要なポイントは個人と組織を分けて考えること→組織から与えられている MUST や得意な CAN を WILL として語ってしまいがち ➤ 「個人の WILL」と組織の「MUST」の連結 個人の WILL の輪郭が見えると組織の WILL との重なりと違いがわかる→次につたつの WILL の連結する→WILL と MUST を直接結び付けるのではなく CAN を経由する ➤ 「WILL-ACTION(意志ある行動)」の習慣化 意志ある行動の一步目を踏み出させる(行動の壁)→習慣化させる。意志ある行動を大量に繰り返す「WILL-ACTION サーキット」(習慣化の壁) ③ まとめ 仕事も人生も自分たちで楽しくする ➤ 「自律を支援する」とは社員を「幸せにすること」 ➤ 成功のカギは施策オーナーや推進者が一番「WAC-WAC」していること 自分の意志を言語化し、具体的な行動に移す。行動してみて自分の意志を言語化する。相互に行き来しながら前進していくことで、モヤモヤがワクワクに変わる。
ブレイクアウトセッション	【グループ1】 今回のセミナーは組織のマネジメント層にぜひ聞かせたい。WILL をもって決めて行くのが大事である。人の話をよく聞くマネジメントが必要である。 【グループ2】 主体がわからないときは客体を見て主体がわかるプロセスがあるのではないかな。通信制高等学校生が企業に属しながら越境を体験している事例がある。 【グループ3】 WILL を大切にするにはスキルが問われる。高校生にやりたいことを聞くと「わからない」という答えが返ってくる。WILL を低学年層にも取り入れることが必要なのではないかな。 【グループ4】 自己肯定感を持つには環境を作る側のひとたちがカギを握るのではないかな。
まとめ (考察)	越境をしていない組織としない組織には大きな違いがある。越境がすべての正解ではないが越境プログラムの有無には考え方、行動に違いが見受けられる。内製化された企業であっても組織の境は越えられる。社会人基礎力の「前に踏み出す力」を生み出すことが重要であると思われる。
その他	次回のご案内 日時 2025年6月21日(土)10:00~12:00 講師 宮城大学教授、キャリア・インターンシップセンター長 洪田 一夫 氏 「偶然を味方にするキャリア形成」
ご参加のみなさま	ご参加ありがとうございました。 

